

第14回「日本人学生の「アジア体験」コンテスト」 入賞者報告

【開催日時】 2013 年 11 月 16 日(土)12:00～15:00
【会 場】 共立財団日本語学院(共立財団湯島ビル 4F)
【後 援】 文部科学省
外務省
産経新聞社
【協 賛】 株式会社 共立メンテナンス

企画内容として今年度は3カ国(ミャンマー、インドネシア、カンボジア)で①日本語教育体験・日本語教育の現状調査②進出する日本企業等の調査③医療・サービス等の調査研究のいずれかに関して企画書を提出してもらいました。1次選考は書類審査を行い、2次選考(面接)へ17名が進みました。

2次選考の面接選考会を希望国で分け、グループごとに実施しました。

審査委員4名による選考がおこなわれ、「夢・アジア体験賞」の入賞者5名を選考しました。

■グループ面接の様子

第①グループ
ミャンマー 8名



第②グループ
インドネシア 5名



第③グループ
カンボジア 4名



グループ面接の後、審査委員4名による慎重な選考の結果、ミャンマー2名、インドネシア1名、カンボジア2名の入賞者を決定し、各自が企画書に沿った体験をしてくれることを期待します。

■入賞者（選んだ企画書のテーマと目的）

※企画書から抜粋しております。

①^{シラサギ チ ホ}白鷺 智帆（四日市看護医療大学 看護学部 看護学科）

選んだテーマ：③医療・サービス等の調査研究

タイトル：「ミャンマーにおける医療の実態」 国：ミャンマー



目的：①地区視診を通して、住民が利用している資源を知る。

②アンケートを通して健康に関する意識調査を行う。

③住民の利用している医療サービス、資源と住民が利用可能な医療サービス、資源について調査する。

②^{ヒ ジ ヤ ナオト}日地谷 直人（東海大学 法学部 法律学科）

選んだテーマ：②進出する日本企業等の調査

タイトル：「ミャンマーに進出する日系企業の戦略調査」 国：ミャンマー



目的：5000 万の人口を擁するミャンマーは民政への道を歩み始めたばかりである。経済制裁も解かれたばかりでインフラ整備などの経済協力もこれから本格していく。そうしたいわば「離陸」前のミャンマー経済には計り知れないビジネスチャンスがあると考えられる。そこで、日系企業はミャンマー進出においてどのような戦略をたてているのか、それはいままでの東南アジア進出とどう異なるのか、両国の経済関係の発展を展望するべくあきらかにしたい。

③^{タ ナカ ミ ナ}田中 見奈（四日市看護医療大学 看護学部 看護学科）

選んだテーマ：③医療・サービス等の調査研究

タイトル：「インドネシアの理解と今後のインドネシア人看護師支援への可能性」 国：インドネシア



目的：①インドネシアの病院や医療の現状、文化を知ること

②来日予定者の来日における気持ちを知ること

④^{マツキヨ ヒトミ}松清 瞳（日本菓子専門学校 製菓技術科）

選んだテーマ：③医療・サービス等の調査研究

タイトル：「カンボジアで売れるスイーツとは」 国：カンボジア



目的：カンボジアについてさまざまな角度から調査・分析を行い、スイーツ業界が市場に参入できるか可能性を探る。

⑤^{ヨシダ マコト}吉田 誠（東京大学大学院 農学生命科学研究科）

選んだテーマ：③医療・サービス等の調査研究

タイトル：「カンボジアにおけるタガメ養殖の実態調査」 国：カンボジア



目的：タイで多く流通しているタイワンオオタガメは、カンボジアから大量に輸入されています。

しかし、その採集現場や養殖、流通ルートはほとんど明らかになっていません。この調査では、その実態を見て、食用昆虫の可能性について探ることを目的としています。

■授与式の様子



講評に耳を傾ける参加者



菊川実行委員長 挨拶



入賞者に賞状と賞金の授与



越前谷審査委員長(左)と北原審査委員(右)による講評



後列左より:日地谷 直人さん、白鷺 知帆さん、吉田 誠さん、松清 瞳さん、田中 見奈さん

前列左より:本田 一男 審査委員、菊川 長徳実行委員長、越前谷 明子 審査委員長、北原 賢三 審査委員、石塚 庸平総務委員長